

研究主題

自分や相手を大切に作る生徒を育てるための工夫
 ～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して～

1 日時 平成25年11月1日(金)

13:15～16:30

【受付13:00～】

2 会場 三島市立北中学校



3 日程

13:00 13:15 13:45 13:55 14:45 15:00 16:20 16:30

受付	全体会 (会議室)	移動	中心授業	移動	分科会	閉会
----	--------------	----	------	----	-----	----

4 全体会 13:15～13:45 【場所 会議室】

- ①校長あいさつ 校長 西川 晃宏
- ②三島市教育委員会あいさつ 教育長 西島 玉枝 様
- ③研究の取り組みについて 研修主任 井原 正則

5 中心授業

教科	教場	授業内容	授業者	分科会会場
技術・家庭	1年5組	快適に住まう	高橋 由美	第2音楽室
道徳	2年4組	生命の架け橋となって	福田 宮子	図書室
学級活動	3年4組	みんなで受験を乗り越えよう!	芹澤 鮎美	会議室

6 閉会 16:20～16:30 【場所 各分科会会場】 ※放送にて行います

- ①指導講評 学校教育課長 西島 正晴 様
- ②お礼の言葉 教頭 落合 佳宏

平成25年11月1日(金)
 三島市立北中学校

はじめに

「ではみなさんは、そういうふうには川だと言われたり、乳のながれのあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものが本当は何かご承知ですか」、先生役の生徒が黒板につるした大きな黒い星座の図の銀河帯のようなところを指す場面から今年の飛翼祭文化の部、特別支援学級の演劇「銀河鉄道の夜」は始まりました。主人公ジョバンニ、友人カンパネラをはじめ、全員がいずれかの役を見事に演じきりました。さらに午後からの合唱コンクールでは、トーンチャイムで「花は咲く」を演奏し、澄みきった秋空のような美しい音色をホールに響かせました。

「銀河鉄道の夜」の作者、宮澤賢治が生まれる2ヶ月前には三陸地方で津波があり甚大な被害があったそうです。「花は咲く」は東日本大震災の復興をテーマにNHKで流れ続けています。宮澤賢治とトーンチャイムの曲には偶然にも津波という共通点がありました。心のこもった演技と演奏は聴衆の生徒、保護者、地域の方々に感動を与えました。



本校では、平成24・25年度の2年間、三島市教育委員会からの指定を受け、研究主題「自分や相手を大切にする生徒を育てるための工夫、～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して」の研究に取り組んでまいりました。

当初、指定研究の大テーマ「命を大切にする教育」を受け、方向性を決めるにあたり、災害発生時の避難方法などの実践的な研究がまず脳裏に浮かびました。しかし、それ以上に発生後の復興に向けての人と人との心のつながりと支えが如何に大切かという思いも強くなりました。

特別支援学級の劇と演奏を温かく見守る生徒たち、万感の思いで拍手を送る生徒たち、そこには北中の特長とも言える人と人との心を支え合う共存と共生の大切さが自然と身につく土壤が映し出されていました。

ところが、一人一人に目を向けるとコミュニケーション不足が原因と思われる気になる行動もあり、望ましい人間関係の構築には及ばない点多々見受けられました。

そこで、研究の主題を目の前にいる相手を大切に、伝え認め合う集団づくりという視点で、教科、道徳、特活の実践で取り組むこととしました。研究を進めていくうちに間口を広げすぎたという思いもありました。しかし、テーマ別のグループに分かれての研修では、ベテラン教師がリードしながらも若手教師と膝を交えた率直な意見の交換など、研修を深める場面に教師間の協働が見られ、さらに校内授業研や公開授業では研究の主旨を積極的に採り入れた実践を積み重ねるなど成果も上げてきました。

研究は決して特別なことや花火を打ち上げるようなすごいことはやめておこう、さらに、研究のための研究に陥ることはよそう、実践的なものを目指そうという共通認識のもと無理のない持続可能な取り組みを心がけました。

本日研究発表を迎えましたが、研究は道半ばでもあり決して目新しいことはありません。しかし、研究を継続することにより私たち教職員が「違う意識・視点」を持つようになったことは確かに事実でもあります。不十分な点が多いと思いますが皆様から様々な御意見や御指導を賜る中で、今後の研究を進めていきたいと考えております。

最後になりますが、御多用の中、本研究発表会に御参会いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。また、静岡県教育委員会西島真美指導主事、三島市教育委員会佐藤恵指導主事、エリアリーダー山田小学校鈴木基之教諭には貴重な時間を割いて懇切丁寧な御指導をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

平成25年11月1日
三島市立北中学校長 西川晃宏



校訓 自治敬愛

教育目標

感動する心・問題を解決する能力・すこやかな心身の育成

安心して登校でき、満足して下校できる学校
(信頼される学校をめざして)

協働して生活できる生徒

個性や特性を認め合える生徒

念願する生徒像

正しい判断で自律できる生徒

正義を愛する生徒

目標をもって自ら学ぶ生徒

特別支援教育の推進

確かな学力の育成

PLAN

命を大切にする教育

自分や相手を大切にする生徒を育てるための工夫
(伝え合い、認め合う集団づくりを通して)

CHECK

CHECK

- 多くの人とふれあう場を通し、思いやりの心を育てる
- 教職員の協働体制の「PDCA」サイクルが機能する
- 何でも相談できる雰囲気づくりをする

評価指標:「仲のよい学級作り」 90%以上

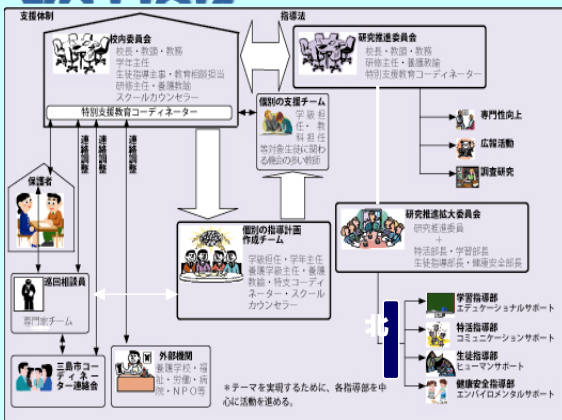
- 生徒同士の関わりを重視した授業を展開する
- 北中アシストを機能的に活用する
- 計画的な学習支援を行い、課題提示を工夫する

指導指標:「授業の内容がよく分かる」 80%以上

特別支援教育推進体制

北中アシスト

ACTION



特色ある学校づくりのキーワード

ACTION

ヒューマンサポート

発達障害についての理解・対象生徒を取り巻く集団の育成・家庭との連携のための具体的方策を検討し、実践する

エンバイロメンタルサポート

多様な認知特性をもった生徒や来訪者が、困らないような生活環境を整備する

エデュケーションサポート

多様な認知特性をもった生徒に対して、課題の提示や指示の仕方を工夫するなど分かりやすい授業を実践する

コミュニケーションサポート

教育課程にその時間を位置づけ、集団のコミュニケーション能力の向上とリレーションづくりについて研究し、実践する

本校の特色(特別支援教育)

- 特別支援教育推進体制モデル事業委嘱校(平成15・16年度)としての実績をもとに一層の充実を目指しています
- 発達障害及びその傾向にある生徒を含め、多くの生徒にとって居心地のよい学校になることを目指しています
- 生徒の認知特性に応じた授業過程の工夫を研究しています
- Q-Uを活用した学年・学級経営に取り組んでいます

研究構想図

学校教育目標

感動する心・問題を解決する能力・すこやかな心身の育成

命を大切にする教育

研究主題

**自分や相手を大切にする生徒を育てるための工夫
～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して～**

研究仮説

- ①自分の思いや考えを相手に分かるように伝えるための工夫をすることで、自己表現できたという達成感を感じ、自分を大切に思う気持ちを育むことができるだろう。
- ②相手の意見を聞き、認め合う活動を積み重ねることで、相手を思いやり、大切に思う気持ちを育成することができるだろう。

道徳

学級活動

教科

共通の手立て

- ①意見を付箋に書いて提示する。
書くことで自分の考えをまとめ、付箋を提示することで他者にも視覚的に意見を伝えることができる。
- ②小黒板（ホワイトボード）・フラッシュカードを活用する。
多様な考えを引き出し、出てきた意見を比較することができる。
- ③教師の発言や態度の共通理解を図る。

目指す生徒の具体的な姿

- 自分を見つめ、自分のよさに気づくことができる生徒
- 達成感や自己肯定感を感じることができる生徒
- 相手の特性や考え方を知り、相手を認めることができる生徒
- 相手のことを考えて行動できる生徒

生徒の実態

- CTに意欲的に取り組むことができる。
- 飛翼祭などの行事に積極的に取り組むことができる。
- ボランティア活動に自主的に参加する。
- 真面目にノートを取る生徒が多く、自分の意見を書くことができる。
- △小集団では意見を言えるが、全体の場では言えないことが多い。
- △多様な考えを出すことが苦手である。
- △他者の意見に関心が低い生徒がいる。
- △分かってはいても行動に表せないことが多い。

三島市教育委員会
指定研究委託
「命を大切にする教育」

自分や相手を認め、思いやりの気持ちを大切にすることができる生徒

研究主題

自分や相手を大切に作る生徒を育てるための工夫 ～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して～

主題設定の理由

(1) これまでの研修について

本校の研修の特徴を挙げるとして、まず思い浮かぶのが特別支援教育への意識である。これは平成15年度から「特別支援教育推進体制モデル事業」の委託を受け研究が行われたことに起因している。現在でも、Q-Uを用いた生徒理解、授業における「学習の流れ」の提示、コミュニケーションボードの活用やコミュニケーションタイム（CT）の実施など、様々な教育活動として本校に根付いている。平成20年度からは「地域福祉教育事業実践校」の指定を受け、ノーマライゼーションの考えを学校の中で実現し、生徒相互が個性や特性を認め合い、協力し合う集団づくりを目指して研究が進められた。平成22年度からは、これまでの研究成果を授業改善に役立て、確かな学力を身につけるための工夫として、かかわり合い、学び合う力の育成を目指した研究を実践してきた。本時のねらいにせまるかかわり合い、学び合い活動の実践、効果的なグループ編成、教師の発問の工夫等について研修を重ね、学校評価アンケートにおいて、授業の内容が良くわかると答える生徒の割合が増加するなど、一定の成果を上げることができたと考えられる。

このように、ここ10年の研究を振り返ると、その根底には必ず特別支援教育の意識があり、特別支援教育への取り組みが本校の教育活動を支えていることがわかる。そのため、本研究も特別支援教育の土台の上に成り立つものでなければならないと考えた。



(2) 生徒の実態

明るく素直な生徒が多く、係活動や飛翼祭などの行事に意欲的に取り組むことができる。また、ボランティア活動にも関心が高く、エコキャップ運動への参加や通学路のゴミ拾い清掃などは、生徒が自発的に始めた活動である。特に、東日本大震災の折には、すぐに何かができないだろうかと生徒会本部を中心に、募金活動や未使用タオルの回収、絵本を被災地に送る活動を行い、多くの生徒が参加することができた。しかし、平成23年度末に行われた学校評価アンケートの「北中の生徒のよいと思われる項目に丸を付けてください（複数回答あり）」という質問に対し、「やさしく思いやりがある」に丸を付けた生徒は意外にも少なかった。きっかけがあれば行動に移すことができるのだが、日常生活の中では思いやりの気持ちを表に出せない生徒が多いことがうかがえた。さらに、「友達と仲良く協力できる」については、丸を付けた生徒が半数を超えていたのに対してそこを本校の生徒の良いところと感じている教員が少なかったことから、思いはあるのだがなかなか表面に出せないという課題が見えてきた。また、同アンケートにおいて、「自分の考えをはっきり言える」や「人の話や意見をしっかりと聞くことができる」に丸を付けたのは、生徒、教員ともに多くなかった。実際に、授業などで、全体の前では発言することはできないが、ノートやワークシートに大変すばらしい意見を書いている生徒の姿を見かける。また、友達の発言に対して賛成や反対の意思を示したり、友達の発言に自分の意見を重ねて発表したりすることを苦手としている生徒が多い。CTを実践することで生徒同士のかかわり合いの場面を増やし、一定の効果を感じているものの、自分の思いを相手に発信し、尚且つ、相手の思いを受信することも本校生徒の大きな課題となっている。

(3) 命を大切に作る教育

昨年度、三島市教育委員会より「命を大切に作る教育」というテーマで指定研究を受けるにあたり、本校のこれまでの取り組みや生徒の実態を踏まえた取り組みになるように考えた。前述の学校評価アンケートでは、「病気や怪我に気をつけて生活している」に「はい」と答えた生徒は82%、「避難訓練など防災について真剣に取り組んでいる」については86%と、自分の健康や防災への意識が高いことがうかがえる。当然、生徒たちは「命」はかけがえのないものであり、大切にしなければいけないことを十分理解している。さらに、東日本大震災に関する一連の世の中の動きを肌で感じ、「命」について考える機会も多かったと思われる。しかし、改めて日常生活に目を向け

てみると、その思いとは裏腹に自分や相手を傷つけてしまう場面も見られた。このような言動からまだまだ日常の中では自分や相手を大切にすることが不足しており、自他を大切にしようとする気持ちを育むことが「命を大切に教育」につながると考えた。

そこで、伝え合い、認め合う活動を中心に授業を展開することで自己肯定感を高め、自分のよさに気づくことができたり、相手の特性や考え方を知り、相手に対する思いやりの気持ちを育んだりできる人間関係の構築を図っていくこととし、研究主題を「自分や相手を大切にしている生徒を育てるための工夫～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して～」と設定した。



研究の概要

(1) 研究仮説

- ① 自分の思いや考えを相手に分かるように伝えるための工夫をすることで、自己表現できたという達成感を感じ、自分を大切に思う気持ちを育むことができるだろう。
- ② 相手の意見を聞き、認め合う活動を積み重ねることで、相手を思いやり、大切に思う気持ちを育成することができるだろう。

(2) 研究方法

① 3つのグループ

研究仮説を実証するために、道徳・学級活動・各教科の授業という3つの場面でアプローチすることとし、それぞれの研究グループを組織して実践にあたることにした。命を大切にするというテーマに近づき、人と人とのつながりや支え合いを深めるためには、計画的な道徳の時間の運用は不可欠であると考え、道徳のグループを作ることにした。また、自分や目の前にいる相手のことを大切に思うためには、一番身近な学級という集団の中で形成される人間関係が基盤になると考え、学級活動グループも一つの柱とした。そして、学校における教育活動において、最も重要であり、かつ、最も時間をかけている日々の授業においても、自己肯定感を高めることや相手と認め合う活動が数多く取り入れられると考え、教科グループを作ることにした。

② 共通の手立て

3つのグループがそれぞれが独自に研究を進めるのではなく、共通の手立てをもって進めることとした。生徒が思いや考えを伝えたり表現したりする「発信」と、ただ相手の意見を聞くだけでなく、相手の意見を尊重し思いやりの態度が伝わるように聞こうとする「受信」の両方の側面をもつ手立てが望ましいと考えた。また、発信も受信も本校生徒の課題の一つであるため、模範を示して学ばせることも必要であると考えた。そこで、以下の3つの共通の手立てを仮説を実証するための具体的な手立てとした。

1 意見を付箋に書いて提示する。

書くことで自分の考えをまとめることができ、発言するとともに付箋を提示することで他者にも視覚的に意見を伝えることができる。さらに、小集団での話し合いの中で、付箋を用いて意見の集約をすることができる。

2 小黒板（ホワイトボード）・フラッシュカードを活用する。

発言は苦手でも書くと良い意見を出せる生徒が多いため、小黒板などに意見を書くことで多様な考えを引き出すことができる。また、他者の意見を聞くことが苦手な生徒も、目で見ても確認することができる。さらに、全体の場に出てきた意見を容易に比較し、小集団での意見をまとめて提示することができる。

3 教師の発言や態度の共通理解を図る。

生徒の発言に対して、教師が共感したり、うなずいたり発言を認めるような態度をとることで、発言者に対して達成感や安心感を与えることができる。また、聞き手としてどのような反応をすれば良いのかを生徒に示すことができる。

授業実践 (平成25年4月～)

(1) グループごとの研究授業から

①道徳グループ 「相手を理解する」 (3年)

場面 授業導入場面において、個々の考えを持ち、表明する場面でマグネットを使用する。

ねらい 考えを深める場面において、班で個々の意見を交換するところでホワイトボードを使用する。ねらい ホワイトボードを使うことで、多くの人の考えを知ることができる。また、個々の意見を可視化することで、個々の考えの変化をわかりやすくする。

手立て 班の話し合い活動において、班員の意見を、ホワイトボードにまとめ、発表するときに提示する。

「どちらを選択したか。」という発問に対して、個々に配布した2種類のマグネットのうち選択した方を黒板に貼ることで、個々の意見を可視化する。

成果と課題

班の話し合い活動の中でホワイトボードを使用したことで、班内での意見の集約が容易になった。しかし、ホワイトボードに書ききれない意見や小数意見は、省略されてしまうこともあった。小集団での話し合いは、普段発言をしない生徒でも発言しやすい環境となる。意見の可視化は、単に数字で示すよりも、量が見てとれることで、印象に残る。そして、話し合い活動後の意見の変容もわかりやすくなった。ただし、個々に黒板に貼るので、意見が他者の貼っている様子に左右されることがあったので、今後の課題になると思われる。

②学級活動グループ 「聞き方の達人～上級編～」 (特別支援学級2年)

場面 主発問「相手が『話してよかった。』と思えるような返事の会話文を考えてみよう。」に対して自分が考えた返事の言葉を発表しあう場面。

ねらい フラッシュカードに書いて提示することで、挙手発表が苦手な生徒も自分の意見を全体に発表することができるようになる。

手立て フラッシュカードに各自が考えた返事の言葉を記入させ、それを黒板に貼り、全体の前で発表する。

成果と課題

今回のフラッシュカードを使った発信・受信の手立ては特別支援学級の実態に合った手立てであり、生徒たちが自分の考えを明確にするのにとっても役立っていた。また、それぞれの意見を掲示してあらわすことにより、視覚的にもわかりやすく、意見の共有が容易であった。他者の意見を知ったからこそ自己肯定感を高めることができ、同時に、他者を認めることにつながったと思う。

また、授業者の生徒への言葉かけがすばらしかった。生徒の発言を笑顔で受け止め、大きくうなづいたり、「ありがとう。」と言言葉をかけたりすることで、生徒が安心して話すことができた。

今後の研究を進めるにあたり、生徒の発信・受信の手立てを考えるだけでなく、教師の授業中の言葉かけや受容の姿勢なども大事にしていくべきだという意見が出た。また、発信の手立てとして、フラッシュカード・付箋・ホワイトボードの活用は、扱う教材や目標に応じて適切なものを選ぶ必要がある。

③教科グループ (社会) 「社会権と基本的人権を守るための権利」 (3年)

場面 自分にとって健康で文化的な最低限度の生活をするために、1年間に最低限必要な日用品の数を書かせた後、実際に支給された数を示す。この措置をとる国の考えが、違憲か違憲でないかを考える場面。

ねらい 付箋を使うことで自分の意見を目に見える形で班員に表明する。また、ホワイトボードに班の結論である判決を書くことで、判決を下す体験をする。

手立て 話し合いの際、付箋に自分の意見(判断)と理由を書き、色画用紙に貼ることで意見表明をする。リーダーが意見をまとめ、小ホワイトボードに書き、発表する。

成果と課題

内容が面白く、生徒も興味深く取り組むことができた。話し合いも積極的に行い、普段発言があまりない生徒も自分の意見を言うことができ、授業後も意欲的に補助資料を取りに来た。付箋に意見を書き、ホワイトボードにまとめて提示する方法は効果的だった。

グループでの話し合いが全体での話し合いに生かされるとさらに良かった。結論だけでなく、話し合いの過程も知らせたい。どの場面、どういう発問(話し合い)に対して付箋やホワイトボードを使うのか、使用目的や使用するタイミングを考えたい。

(2) その他実践紹介

国語	1年	情報と表現1 発想をひらく・情報を集める
場面	主発問に対して小グループで話し合いをする場面	
手立て	小グループで「三島をPRするキャッチコピー」を付箋や小ホワイトボードを使って話し合う。	
ねらい	小グループで話し合うことを通して、いろいろな視点でコピーを作ることができる。また、友達の考えを知ることができる。	

国語	2年	「アラスカとの出会い」
場面	筆者の考え方の特徴、表現の特徴についてまとめる場面。	
手立て	自分の考えを付箋に書き、その後班で話し合い活動を行う。	
ねらい	筆者の考え方の特徴や表現の特徴について理解するために付箋を利用することで、一人一人が意見を持つことができ、自己表現の達成感を得ることができる。	

国語	3年	「運動会」
場面	4人班の中で運動会がどのような歴史をたどったかをまとめる場面。	
手立て	付箋を使って個人で「どのような運動会」にあたる特徴を書き、4人班の中で意見を共有する。	
ねらい	付箋を使うことで視覚的に他者の意見をとらえやすくする。個人の考えを共有できる。3色の付箋で3段階の歴史を区別できる。	

社会	1年	古代国家の歩みと東アジア世界 飛鳥文化
場面	主発問に対して、個人で考えてワークシートに書かせた後、班で考えの交流を行い、まとめる場面。	
手立て	自分の考えを班の中で交流した後、班としての考えをまとめ、それをホワイトボードに記入し、黒板に掲示する。	
ねらい	他の班の考えを見比べて、多様な考えがあることに気づく。	

社会	1年	大化の改新
場面	蘇我入鹿と中大兄皇子の立場を比較する場面。	
手立て	付箋を用いてグループごとに意見を出させて黒板に並べて提示する。	
ねらい	人物の性格・時代背景から歴史的事象を考察させる。	

社会	2年	日本の諸地域 九州地方の人々の営み
場面	資料の中から九州の特徴を書き出した後、前時までの学習内容と結びつけて関連性を見つける場面。	
手立て	前時の内容を付箋に書き出し、資料の中から見つけた特徴に貼り付け関連性を見つける。	
ねらい	学習内容と関連づけを視覚的に眺め、班の中で自由に発言しながら関係性を見つけることができる。	

数学	1年	1次方程式の活用
場面	「過不足」の問題で、 x のおき方を変えた時の立式の仕方を説明する場面。	
手立て	小黒板を利用して生徒個々の立式の仕方や考え方を説明する。	
ねらい	問題に合った立式の考え方を理解する。	

数学	3年	関数 $y = ax^2$
場面	ともなって変わる数量の変化の特徴を考える場面。	
手立て	個人の考えを小黒板に書いて黒板に貼りだして、複数の考え方を比較する。	
ねらい	一意的な見方ではなく複数の見方で関数の特徴を押さえる。他者の気づきに共感したり、新たな発見をしたりする。	

数学	特別支援学級	面積
場面	長方形が2つ合わさったL字型の図形の面積の求め方をいろいろと考える場面。	
手立て	各自に図入りのプリントを配付し、それぞれ求め方をプリントに記入し、記入したプリントを黒板に貼り、みんなの前で発表し合う。	
ねらい	プリントを使ってお互いの考えを発表し合うことで、自分の考えを伝え、自分と違う考えを認めることができるようになる。	

理科	3年	化学変化とイオン
場面	塩化銅の電気分解実験後、起こった現象を説明したりイオンモデルを使って表現したりする場面。	
手立て	生徒全員にプリントを用意し、それに生徒が個々の考えを表現する。さらに、実験グループごとに話し合い活動を行い、グループごとに考えを1つにまとめる。	
ねらい	記入したプリントを互いに提示しながら話し合うことで、話すことが苦手な生徒も自らの考えを仲間に表現でき、話を聞く方も仲間の考えを把握しやすくする。	

英語	1年	Multi Plus1 自己紹介
場面	自己紹介文を発表し、発表内容についての質疑応答を行った後の場面。	
手立て	聞き手は、付箋に発表者の良かったところを評価の観点に沿って書き、発表者に渡す。	
ねらい	聞き手を意識した発表ができるようになる。	

英語	2年	My Dream Plan をALT と友達に伝えよう。
場面	スピーチのプレ発表会をグループ内で終えた後の場面。	
手立て	互いのプレ発表を聞き合い、相手の発表の①良かった点、②改善していきたい点を付箋に書く。	
ねらい	聞き手の視点からアドバイスをもらうことで、より聞き手を意識した発表にしていくよう気づく場とする。	

英語	2年	A Magic Box
場面	グループでの Reading 劇の場面。	
手立て	ミニボードを利用した各グループでの話し合い。	
ねらい	他のグループ発表の評価や感想を各班で話し合い、英語でミニボードに記入して発表し、お互いの良いところを褒める。	

英語	3年	Speaking Plus 2 食事の会話
場面	ペアになり、モデル対話を使って自分たちの対話を作る場面。	
手立て	付箋を使い自分たちの使いたい表現を記入していく。	
ねらい	いろいろな考えを出し合い、その表現の使い方や、対話の流れを意識してどのように表現するかを考えさせる。	

音楽	全学年	合唱の楽しみ 混声合唱「各クラス自由曲」
場面	自分達の演奏を聴いて、改善点を見つけ、共有する場面。	
手立て	各パートを「音程係」「バランス係」に分かれて、改善点の気づきを発表しあい、ホワイトボードにまとめ、提示する。	
ねらい	小グループにすることで、意見を言いやすく聞きやすくなり、また気づけなかった生徒へも共通理解をはかれるようにする。	

技術	1年	ものづくり のこぎり
場面	初発問に対して学習書に書いた個人の意見をグループごとにまとめる場面。	
手立て	のこぎりを実際に見ながら学習書に書いた内容を話し合う。	
ねらい	引く時にのこぎりが切れるための工夫を見つける。	

保健体育	2年	運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全
場面	みんなが気持ちよく運動やスポーツをするためにどのようにすればよいか，解決策について考えてみる場面。	
手立て	付箋に自分の考えを書いて，班で意見を交換する。	
ねらい	自己の意見を持つこと。他者の意見を知ること。	

保健体育	3年	器械運動（マット運動）
場面	倒立前転で個人の課題を見つける場面。	
手立て	仲間の演技を見る視点を色分けして提示し，課題を書きこむ。	
ねらい	付箋を色分けして仲間に伝えることにより，視点や課題が明確になり，演技の改善につながる。	

道徳	1年	「兄は生徒会長」
場面	導入で，自分の所属についての考えを出す場面。	
手立て	付箋に考えを書き，班のメンバー内で発表する。同じグループでまとめられる意見はまとめる。	
ねらい	書くことで自分の意見を相手に伝えるとともに，相手の考えと自分の考えの違いがあることを知る。	

道徳	1年	自他の生命の尊重
場面	主発問（主人公の心情）に対して個人で考える時間をとった後の意見交換の場面。	
手立て	主人公が涙を流した理由を心情から想像して付箋に書き，班で意見交換をする。	
ねらい	多様な意見にふれることで気づきを促す。考えを深める。	

道徳	2年	「働くことにやりがいをもって」
場面	主人公の心情を追い自身の職業観を高める場面。	
手立て	1枚のホワイトボードに班員がになりたい職業や理由を書き，作品を読んだ後の価値観の変化を皆で確認する。	
ねらい	主人公の仕事へのやりがいを感じた生徒が，自身が職業を選ぶときに大事なことを考えるようになる。	

学級活動	2年	飛翼祭を振り返ろう
場面	善いことカードを交換する場面。	
手立て	行事が終了したところで，学級の仲間の善いところや活躍した所をカードに記入し，相手に手渡す。書きたい相手に書くことと，くじで引いた番号の相手の善いところをみつけてカードを記入する。	
ねらい	良行な人間関係作り。	

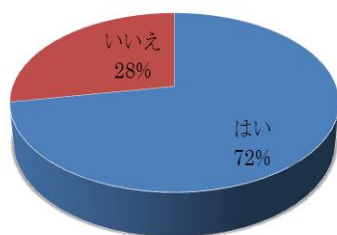
学級活動	3年	夏休みの生活を考えよう
場面	望ましい夏休みの過ごし方を考える場面。	
手立て	2色の付箋に学習面と生活面について望ましい過ごし方と避けたい過ごし方をそれぞれ書き，グループごと発表しながら画用紙に貼り，内容ごとにまとめていく。	
ねらい	学習面と生活面の両方に対してバランスのとれた過ごし方を考えるようになる。	

成果と課題

(1) 生徒アンケートから

以下は平成25年6月の研究授業の後、生徒に対して実施したアンケートをまとめたものである。

○あなたは、授業中に自分の意見を人に伝えたいと思いますか？



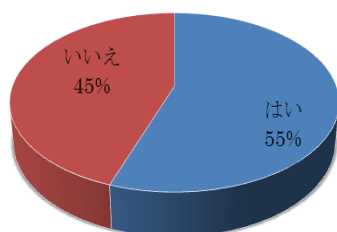
「はい」の理由

- ・聞いてもらえる嬉しいから。
- ・自分の考え方と他の人の考え方はどう違うのか、知りたいから。
- ・自分の意見を言えば共感してくれる人もいし、違うことを指摘してくれるから。

「いいえ」の理由

- ・恥ずかしいから。
- ・自信がないから。
- ・違うことを言ったらばかにされたり、笑われたりするから。

○あなたは、授業中に進んで発言をしていますか？



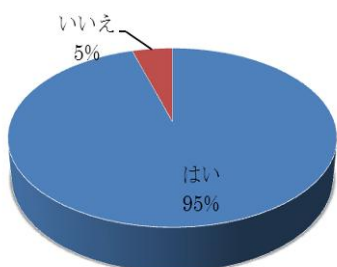
発言する理由

- ・自分の意見を伝えたいから。
- ・発表した方がスッキリする感じがするから。
- ・周りに認めてもらいたいから。

発言しない理由

- ・自分の言いたいことがしっかり言えないから。
- ・「間違えたらどうしよう。」と思ったり不安になったりして、勇気が出ないから。
- ・「間違ってもいい。」と言うけれど、やはり間違うのは怖いから。

○あなたは、授業中に友達が発表する意見に耳を傾けていますか？



どのような態度から「はい」と答えたか

- ・自分と意見が同じときや興味深い意見には相づちを打っている。
- ・自分が考えないようなことを聞いたらノートに書くようにしている。
- ・発表している人の意見を聞いて分からない問題が理解できる。
- ・友達の意見と自分の意見が似ているか違っているかなど、毎回考えて聞いている。

どのような態度から「いいえ」と答えたか

- ・自分のことに集中してしまう。
- ・ノートを取ることに集中してしまう。

○あなたは友達に「自分の気持ちを知ってほしい」と思いますか？書ける人はなぜそう思うのかも書いて下さい。

- ・自分だけ取り残されると悲しいから。
- ・お互いのことをよく知ることができるし、わかり合えるから。
- ・自分を理解してくれる人が少しでもいてくれたら、気が楽になると思っているから。
- ・自分の気持ちを教えたら、相談やアドバイスをくれると思うから。

○あなたは誰かの前で発言するときに、自分の気持ちが伝わったと感じることがありますか？書ける人は、なぜそう感じたのかも書いて下さい。

- ・自分が意見を言うとみんながそれにアドバイスや付け足しなどをしてくれるので、「伝わったな。」と思う。
- ・相手が自分の思っていたように行動してくれたとき。
- ・うなずいて聞いてくれたり、「同じ！！」と言ってくれたりするとき。
- ・意見を言ったときにみんなが納得できたという雰囲気を感じたことがあったから。
- ・みんなが「確かに。」「そうだね。」「賛成です。」などの言葉を言ってくれたとき。
- ・拍手してくれたとき。

多くの生徒は自分の意見や気持ちを相手に伝えたいと思っている。しかし、思いはあっても恥ずかしさや自信のなさを理由に、行動に移せない生徒も少なくない。これは中学生の発達段階として避けられないことかもしれないが、その中でも、伝え方が未熟なことや聞き手の態度も発言することを妨げているとアンケート結果から感じられた。この点については、本研究が十分に生徒に浸透していないことが考えられる。自分の意見を相手に伝えることに慣れたり、相手が話しやすい聞き方を学んだりすることが、まだまだ必要である。しかし、研究を進めることで、「伝えたい。」と答えた生徒の割合と、「進んで発言する。」と答えた生徒の割合の差が、昨年度より小さくなったことも事実である。これは一定の成果と考えられる。また、中には、伝えたいと思わないが進んで発言するという生徒も若干が見受けられた。これは「授業が進まないから。」「発表して成績を上げたいから。」といった理由からであった。このような生徒も伝えたいと思うような働きかけが必要であると感じた。

(2) 共通の手立てから見る成果と課題

①意見を付箋に書いて提示する。

成果

- ・小グループで付箋を使うことにより、普段なかなか発言ができない生徒も参加する場面が多くなり、生徒の多様な意見を引き出すことができた。
- ・付箋は、意見の関係性に気づいたり、分類したりする場面では、貼ったり剥がしたり重ねたりすることができるので、有効利用しやすい。
- ・他者からの評価をもらう場面での使用は客観的な捉えができ、効果的だった。

課題

- ・付箋を使うことで、自分の意見を言わなくても提示できるため、かえって音声での意見交流を妨げてしまうことがある。
- ・同じ意見を並べるとか、重ねるなど、付箋の貼り方や使うルールを教えることが必要である。
- ・付箋の大きさに限りがあるので、全体の場では小さすぎて見にくくなってしまうため、使用する場面を選ぶ必要がある。

②小黒板（ホワイトボード）・フラッシュカードを活用する。

成果

- ・発表者が説明する内容がホワイトボードに書いてあるため、聞き手は聞きながら見ることができ、理解しやすい。
- ・ホワイトボードに書かれた多様な考えを黒板に貼ることで、全体の場で意見の比較をすることができた。
- ・集団を小さくし、ホワイトボードにまとめることにより、集中して話し合い活動ができた。その後もホワイトボードを提示することにより、学習を深めることができた。
- ・ホワイトボードに書くことで、教師側も意見を受け止めやすくなる。

課題

- ・班の考えをまとめる場合、どのようにまとめるかというまとめ方の指導や、話し合いや意見交流の進め方の指導が必要である。
- ・ホワイトボードの大きさは、使用場面によって使い分ける必要がある。特に全体での提示には大きな文字でないと見にくくなり、生徒の参加意識が低くなる恐れがある。
- ・個人の制作や作業の多い教科では使いにくかった。使う場面をよく選ぶ必要がある。

3 教師の発言や態度の共通理解を図る。

成果

- ・大きくなずいたり，復唱したり，一人一人の意見に言葉をかけたりすることで，生徒も安心して話すことができた。
- ・関係ない意見にも否定をせずに聞くことで，どんどん発言していいという安心感が生まれた。

課題

- ・まだまだ効果的な言葉かけや受容の態度を示すことができると考えられる。日々意識して生徒と向き合うことが不可欠である。
- ・生徒が真似るようになるくらい，継続して行わなければならない。

(3) 研究仮説から見る成果と課題

- ① 自分の思いや考えを相手に分かるように伝えるための工夫をすることで，自己表現できたという達成感を感じ，自分を大切に思う気持ちを育むことができるだろう。

成果

生徒が自分の意見や思いを発信できるような様々な手立てを取り入れたことで，「意見がたくさん出て楽しかった。」，「自分の意見を伝えることができた。」という満足感を生徒に与えることができた。このような体験を積み重ねることで，自分に自信を持ち，自分のよさに気づくことができるだろうと感じられた。

課題

自分を大切に思う気持ちを育むことができたかどうかという点において，生徒の大きな変容を見つけることはできなかった。時間をかけて少しずつ育てていくことが大切である。

- ② 相手の意見を聞き，認め合う活動を積み重ねることで，相手を思いやり，大切に思う気持ちを育成することができるだろう。

成果

相手の意見を受信する工夫により，相手の意見に興味を持ち，多様な考えやそう考える友人の存在を認められるようになってきたと思われる。大きな変容は見受けられなくとも，相手を思いやり，大切に思う気持ちは確実に育ちつつあると感じられた。

課題

一部の心ない発言や行動に根気強く対応し，心の変容を促さなければならない。また，思いやりのある行動を当たり前のように行うことができる集団の雰囲気づくりも課題である。

付箋を用いた授業の生徒の感想に次のようなものがあった。

今日の授業はいつもと違ってふせんとか使ってて，分かりやすかった。(中略)
自分一人だと不安な意見でも班の人とはなしあって紙に書いたりすると，意見が発表しやすしい，みんなの考え方もわかるので，そういうのは良いと思いました。
これからもこういう授業の方がいいと思います。(2年生女子)

まだまだ研究の途上ではあるが，確実に前へ進んでいることを強く実感した。

おわりに

「命を大切にする教育」というテーマで、平成24年度・25年度と三島市教育委員会より指定・委託を受け、研究主題を「自分や相手を大切に育てるための工夫 ～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して～」としました。これは、東日本大震災を目の当たりにして、命の大切さを大人も子どももひしひしと実感したからです。そこで本校では、これまでの研修の経緯をふまえ、目の前にいる相手を大切にし、伝え合い認め合うことができる集団づくりという視点で授業実践に取り組むこととしました。

人は人の中で生きていきます。自分の周りの人たちとの関係をどう築いていくか、学校という集団生活の場で学ぶことができると考えます。私たちは、テーマに迫るために、まず、‘生徒の実態’を把握することとしました。そのため、今年度もQ-Uを行い、各学級内の友人関係や個々の生徒の実態についての把握に努めました。そして、道徳、学級活動、教科という三つの学びの場で、本校の‘目指す生徒’を育てようと考えました。授業中、受信はできるが、それを受け自分の意見を発信することが苦手な生徒たちに、小集団での話し合いを通して自分の思いを語れるような場を意図的に作るように心掛けました。

また、生徒一人一人の思いを大切にするための手だてとして、付箋の活用もしました。自分の意見が認められたり、また、友達の意見を知り、自分はどうかを表現したりすることを円滑にするためです。さらに、グループでお互いの意見を交換し、ホワイトボードにまとめることで、それを用いて学級全体で意見交換することができると考えました。

各授業でテーマに沿って実践し、検討を重ねて、6月には3つのグループでそれぞれ校内授業研究を行いました。特別支援学級で行った学活の授業では、フラッシュカードで個々の意見を取り上げたことが、視覚的にわかりやすく、また、生徒の自己肯定感を高めたようです。社会の授業では、課題をどのように提示するか、付箋や画用紙を用いた話し合いのタイミングや、司会の方法の指導も話題になりました。また、話し合いの中で、自分の意見の根拠や理由をいうことが大切であることを生徒たちも確認できました。道徳の授業では、教材の内容と生徒の実態についての課題が出されました。9月の授業研究では、こうした成果や課題を踏まえての授業を行いました。授業者が指導案の中に、研修テーマにどのように迫るのかをきちんと書き、研修との関わりをより明確にすること、本時の目標－活動－評価の整合性を持たせることなどを研修しました。そして、様々な手だてを用いて、生徒が友達の意見を聞き、それに対して自分の考えをもち、理由や根拠をもって発信できるように、これからも、継続して各授業に取り組んでいきたいと思えます。

三島市の指定研究としては、ここで一旦区切りを迎えますが、「命を大切にする教育」、自分や相手を大切にすること、お互いを認め合うことは、これからも本校生徒にとっては大切なことであると考えます。授業はもちろん、生徒会活動、行事などを通して、生徒自らが自他の関わりの中から「学びの実感」を持ち続けられるように、支援、指導していきたいと思えます。

結びに、本校研修に度々足を運んでいただきご指導ご尽力いただきました、静岡県教育委員会西島真美指導主事、三島市教育委員会佐藤恵指導主事、エリアリーダー山田小学校鈴木基之教諭には貴重な時間を割いて懇切丁寧な御指導をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

教頭 落合佳宏

研究に携わった職員

平成25年度

西川晃宏、落合佳宏、山下哲司、中野利敬三、原弘美、上杉昌良、斉藤忍、山田有良、尾鷲達美、武井伸二、藤岡信也、杉山真佐志、米山操枝、有馬義伸、小森正人、森田恵、高橋由美、露木江利子、長谷川賢治、福田宮子、坂本陽子、竹田浩樹、津金澤優子、井原正則、平田吉彦、稲葉英彦、大塚美里、横田睦、杉山裕美、山内佳孝、芹澤鮎美、田邊達矢、原木章成、初山裕、橋本行子、今泉伸隆、石川林多郎、吉田郷江、長田美津子、稲垣隆二、富永安男、草萱昌子、宍戸伸、新井富貴子、拜郷真紀子、相原淑子、佐藤あづみ、久保田麻衣子、鈴木愛衣、ドミニク・クルーストン、トビー・ウォルシュ

平成24年度

西川晃宏、平田康明、露木知浩、中野利敬三、原弘美、上杉昌良、尾鷲達美、武井伸二、藤岡信也、有馬義伸、今野輝雄、小森正人、森田恵、杉山真弓、齋藤龍哉、宮下厚子、森早樹子、望月健、小林弘力、中村隆司、萩原芳男、綾部太輔、渡邊高子、高橋由美、長谷川賢治、加藤陽子、津金澤優子、井原正則、平田吉彦、稲葉英彦、大塚美里、横田睦、芹澤鮎美、橋本行子、石川林多郎、長田美津子、三枝恭子、東瑞穂、草萱昌子、宍戸伸、新井富貴子、穂山あずさ、佐藤あづみ、山田典子、城下瑞穂、エマ・マーゼソン、デイビッド・チャンク